



# NHK杯 第55回全日本選抜選手権

5月13~15日 新狭山グランドボウル

## 優勝は男子・藤永北斗選手、女子・伊勢川華愛選手 頂上決戦は“新鮮力”台頭の舞台に



▲選手権者に輝いた男子・藤永(左)、女子・伊勢川の両選手

中学生以上のジュニアからシニアまでのトップアスリートボウラーが一堂に会して覇を競うJBC最高峰の男女別個人戦「NHK杯 第55回全日本選抜ボウリング選手権大会」が5月13~15日の3日間、埼玉県狭山市の新狭山グランドボウルに男子130名(BL5名)・女子103名の選手が参加して開催された。競技は男女とも予選9G、準々決勝&準決勝各6Gの計21Gを経て上位4名をエリミネーター方式のTV決勝に選出。その結果、男子は20歳の藤永北斗選手(熊本)、女子は21歳の伊勢川華愛選手(和歌山)が、ともにうれしい初優勝を飾った。(主催: (公財)全日本ボウリング協会)

### ロングオイルが波乱を演出

今大会は44フィートのロングオイルパターンを採用。さらに前回よりゲーム数が6G増えたこともあって、選手たちは予想以上にタフな戦いを強いられた。ゲームが進むにつれて難解に変化するコンディションにほんろうされる選手が続出。とくに早朝スタートの準決勝からリメンテナシで突入した最終日のTV決勝は、スプリットやノーヘッドのローカウント投球が男女合わせて20以上を数える波乱の展開となった。

上位4名による3位決定戦を勝ち抜けたのは、女子が伊勢川選手と両手投げの16歳・森恵美選手(奈良)、男子は藤永選手と17歳の現ユースナショナルチームメンバーの両手投げサウスポー・熊凌汰選手(福岡)。現ナショナルチームメンバーの鈴木波流(静岡)、石本美来(広島)、佐々木智之(神奈川)3選手はそろって敗退し、頂点の座は若き“新鮮力”によって争われることとなった。

#### 女子TV決勝

先に行われた女子の優勝決定戦は、3位決定戦でひとり



▲断トツのスコアで1位通過した準決勝から一転、決勝では大崩れしてしまった森選手。「緊張して力んでいたのか、普段より球速が出過ぎていました。薄めで割れてばかりだったのがダメなところですね」

200アップのスコアをマークした伊勢川選手が、ここも持ち味のステディーなボウリングで前半をノーミスでクリア。対する森選手は、準決勝の6Gで1402と大爆発した勢いが、ガター(スペア)を犯した3位決定戦の6フレを境に急失速。優勝決定戦はストライクスタートで立ち直るかに見えたが、ピン手前まで延びたオイルにボールを滑らせ、前半だけで3つのオープンフレームを作ってしまう。

伊勢川選手は折り返しの6フレで⑦⑩スプリットを出すも、焦ることなく7フレから3連発。森選手は後半もアジャストできず、7、8フレをいずれもノー



▲現ナショナルチーム勢はそろって3位決定戦敗退。3オープンと苦しみながらも10フレをパンチアウトして3位の鈴木選手(左)は「石本さんとの3位争いを意識していたけれど、結果的に森さんとも1ピン差だったので悔しさが残ります」。4位の石本選手(右)は序盤でまさかの3スプリットオープン。「手詰まりでした。朝の準決勝がよかったので、自信を持って行ったら割れまくった」と2年連続3度目の優勝を逃してガックリ

ヘッドの5本カウント(オープン)として、勝負は早々に決してしまった。

結果は207:130。パワフルな森選手とは好対照に、派手さはないが高い再現性を発揮した伊勢川選手のボウリングが上回った一戦となった。

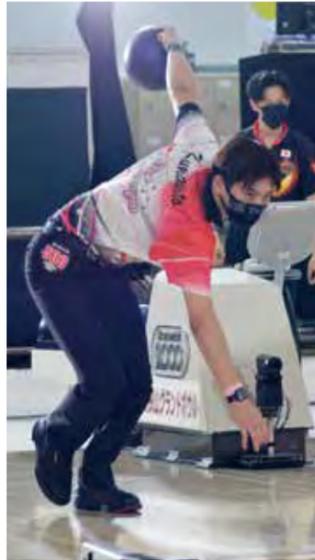
#### 伊勢川選手のコメント

使用したのが弾きのいいボールで、薄めでもピンが飛んでくれる自信があったから、それを信じて投げました。去年のNHK杯は予選落ちだったので、最初の目標は予選通過でした。そして同じ和歌山の安里紗希選手(総合5位)と一緒に通過できたので「決勝も一緒に行こう」と約束して、そのために頑張っ

#### 男子TV決勝

九州勢同士のサウスポー対決となった男子優勝決定戦は、両選手ともキャリーダウンが進行したコンディションに手を焼きながらも、ゲーム自体はスリリングに展開した。

熊選手は2フレ③⑩、5フレ④⑥⑩と2度のスプリットをいずれもオープンに。藤永選手は4フレ②④⑥⑦⑧⑩、5フレ②④⑦⑩、9フレ⑥⑥と熊選手を上回る3度のスプリットを出したものの4、9フレは見事にカバー。さらに2&3、7&8フレで2度のダブルをマークして主導権を握り続けた。



▲全国大会制覇は昨秋の都道府県対抗選手権以来2度目。「大会を通じて苦手なピンを一度もカバーミスなかったことが自信になった」と藤永選手

一方、熊選手のストライクはすべて単発。それでも先投げの9・10フレでまずファウンデーションをマーク。そのままオールウェーでフィニッシュすれば…というかすかな望みも、10フレ1投目のジャスト⑥で万事休す。藤永選手が196:174で逃げ切り、悲願のNHK杯を手にした。

#### 藤永選手のコメント

決勝の相手は同じ九州で、



▲「結果的に負けたということが、自分に何かメッセージを伝えているんだと思う」と準Vの熊選手。「来年また絶対に、この舞台に戻ってきます!」

自分も高校の3年間いたユースナショナルチームのメンバーだったので、絶対に勝ちたいと思っていました。3フレで4本スプリットが出たときはすごく焦りました。滅多にない残りピンでしたが、全国大会のいちばん大事なところで取れてよかったです。9フレの⑥⑩スプリットも、左右のレーンで5枚くらい立ち位置が違ったので、集中しました。今回、最高峰といわれるNHK杯で優勝することができたので、今後出場する全国大会でも優勝できるように頑張りたい。下地監督には「ナショナルに戻ってこいよ」と言われたので、それも頑張ってみたいです。



▲(左)4名中唯一の右投げもアドバンテージとはならず、3位フィニッシュの佐々木選手。「去年は予選落ちでボロボロだったので、ここまでよかったです。ここまできたら5度目の優勝をしたかっただと思います」。(右)長澤選手は左レーンに苦しんで4位。「NHK杯でここまで残ったのは初めて。来年リベンジできたらいいなと思います」



▲2月の大学個人選手権2位、3月の全日本選手権は3人チーム戦で優勝と、上り調子で今大会に臨んだ伊勢川選手。「去年は予選落ち。今年は最後まで残ることができたので、楽しもうと思って投げました」

#### ●女子3・4位決定戦 優勝決定戦

森 恵美	172	130
石本 美来	162	
鈴木 波流	171	
伊勢川華愛	205	207

#### ●男子3・4位決定戦 優勝決定戦

藤永 北斗	199	196	優勝
熊 凌汰	196	174	
長澤 椋	179		
佐々木智之	180		